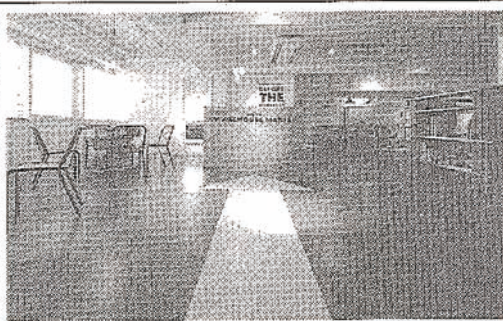


株式会社 週刊住宅新聞社

本社 〒160-0002 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル  
TEL 03-5362-0110 FAX 03-5362-0116 郵便番号 160-0002 03-5362-0110  
発行人 大谷 隆幸 創刊 昭和35年5月10日 第三種郵便物認可  
http://www.shukan-jutaku.com/

この連載では、一見無骨なビ  
ンテージ(築年数の経った)倉  
庫を若い世代が、知恵と工夫で  
自分好みの空間に生まれ変わら



若い経営者に好まれるオフィス  
のイメージ(イコーグループ  
本社8階の商談ルーム)

## 倉庫業者が考える

# ビンテージ 倉庫活用法⑥

せている事例を紹介してきた。  
客付けに悩むようなビンテージ  
倉庫も、別の視点から見れば宝  
の山なのだ。

連載の初めでも書いたが、私  
の倉庫リノベーションへの取り

を担当する建築部署はあるが、  
すい立場にいる。

で言っている。

物件を専門に扱っている。何件

工業新聞社)などがある。

ビジネスにつながった。

私自身は建築デザインのこと  
は、よく分からないし、お洒落  
なオフィスやスタジオを売ろう  
と思ってこのビジネスを進めて  
きたわけではない。

その流れの中で、読者の会社  
でも、お客さまに倉庫リノベ  
ーションという選択肢をお勧めし  
てみてはどうだろうか。一般的  
なオフィスがなくなるわけでは  
ないが、個性的なオフィスを好  
むお客さまというのは、今後増  
えていく。

大谷 隆一(お  
おたに・いわか  
ず)イコー  
コードットコム会  
長。著書に「物  
流改善Q&A 物流ソリューション  
のためのヒント集」(日刊  
工業新聞社、共著)、「これか  
らは倉庫で儲ける!! 物流不  
動産ビジネスのすすめ」(日刊

## 若い世代の経営者ニーズに対応 不動産仲介会社との連携を強化

組みは、「瓢箪から駒」とい  
うか倉庫の空きスペースを埋め  
るための苦肉の策から生まれ  
た。今の物流に合わなくなった  
ビンテージ倉庫のリーシングに  
悩み、お客様の思いがけないニ  
ーズに一生懸命応えていたら、

デザイナー部門は持っていない。  
テナントに独創的な自分好みの  
オフィス、スタジオを作っても  
は、見えるキャンパス(倉庫)を提  
供することに専念している。

読者の会社でも、「外国のg  
oogleやfacebook  
のような倉庫・工場っぽいオフ  
イスがほしい」とか「天井が高  
くて、柱の少ない大空間がほし  
い」など通常のオフィスビルで  
は、かなえにくい要望を持った

パソコンがあれば、どこでも  
仕事ができる現代。画一的な事  
務作業より、自由で斬新なアイ  
ディアを生み出し、会社を盛り  
上げるような働き方が求められ  
ている。それにつれて、オフィ  
スに求められる機能も変わって  
いく。カフェやアトリエのよう  
な働く人にとって心地よい空間  
が求められているのだ。

ものリノベーション工事で建築  
ノウハウを蓄積している。ぜひ、  
個性的な物件を探しているお客  
さまで物件探しに困ったとき  
は、イコーグループに相談  
してみしてほしい。仲介事業者の  
皆さまのお客さまニーズにマッ  
チする物件探しに協力できると  
確信している。(連載おわり)



大谷 隆一(お  
おたに・いわか  
ず)イコー  
コードットコム会  
長。著書に「物  
流改善Q&A 物流ソリューション  
のためのヒント集」(日刊  
工業新聞社、共著)、「これか  
らは倉庫で儲ける!! 物流不  
動産ビジネスのすすめ」(日刊